

東海第二原発、浜岡原発及び伊方原発における津波高及び防潮堤等の高さについて

	東海第二原発	浜岡原発	伊方原発
これまでの最大想定津波高	茨城県が「津波浸水想定」を行う上で考慮した 1677 年の房総沖地震( M8.3 )を踏まえ、5.7mと想定。	東海・東南海・南海地震の 3 連動の地震などを踏まえ、海拔 8 m と想定。	敷地前面海域断層群による地震 ( M7.8 ) を踏まえ、4.3m と想定。
	平成 23 年 3 月 30 日、原子力安全・保安院は、緊急安全対策の実施を指示し、浸水防止措置の考え方として、各地点の土木学会による津波高の評価値に 9.5m を加えた津波高 ( 上限 15m ) を考慮し、浸水防止措置を講ずることとした。		
現在の防潮堤等の高さ	防潮堤は設置されていない。 海拔 6.1m の防護壁を設置。 東日本大震災において、津波高は約 5.4m。	敷地前面に 10～15 m の砂丘堤防。 防潮堤は設置されていない。	防潮堤、防護壁は設置されていない。 原子炉等の主要設備は海拔 10m の高さに位置している。
今後の対策	15m の津波を考慮し、敷地海岸線に防潮堤の設置を検討中。	海拔 18m、総延長約 1.6 km の防潮堤を建設中。	防護壁の建設を検討中。
南海トラフ巨大地震の最大想定津波高 <sup>注</sup>	2.6m と想定 ( 茨城県那珂郡東海村 )	21m と想定 ( 静岡県御前崎市 ) 平成 24 年 4 月 2 日、原子力安全・保安院は上記 21m の津波による影響評価及び必要な対策を指示。	12.6m と想定 ( 愛媛県西宇和郡伊方町 ) 内閣府によれば、伊方原発は瀬戸内海側に位置しており、津波高は 3 m と想定されている。

注：都道府県別市町村別の最大となる津波高＜満潮位＞「南海トラフの巨大地震モデル検討会」資料（平成 24 年 3 月 31 日）